

## 研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
(1)多臓器不全の病態と治療* 多臓器不全(以下MOF)の病態と治療、特に各臓器間の相互影響の機序を解明し、MOFを予防すること、及び有効な治療法を確立することを主眼とする。この点については、現在、各種サイトカインの関与が議論されており、研究手段としてはサイトカインの動態と身体状況との関連を追及することが主となる。	矢口准教授 原田講師	2
(2)エンドトキシン血症の病態と治療* エンドトキシンの測定法は現在、未だ確立されていない。一方でエンドトキシン血症は臨床的には極めて多様な病態を示し、重症例が多く、死亡率も高い。本研究では、疾患の背景、或いは種類に応じたエンドトキシン血症の特徴を明らかにし、各々の病態機序を明らかにし、どの様な治療手段が有効かを解明することを目的とする。	原田講師	2
(3)重度ショックの治療* ある程度以上の重症度のショックに陥ると、いかなる治療も無効となる。所謂不可逆性ショックは救急医療に於て極めて重要な問題である。だが現状では、不可逆性ショックの発生機序は明らかになっていない。我々の教室では、重度ショックにエンドトキシン血症が加わることがその原因と考えており、その発生機序を教室テーマとして研究中である。	矢口准教授	2
(4)急性中毒の治療 大都市にある当センターには、我国でも最多数の薬物中毒患者が搬送されて来る。これら中毒患者の治療について、早期の血液浄化法が有効である。そこで、当研究では、患者身体状況や服用薬に応じた治療法の適否(カラムの種類、治療時間、適応条件など)を明らかにすることを目的とする。研究手段としては、体内の薬物動態を測定することが主となる。	矢口准教授	1
(5)脳死前後の各臓器機能の変化の解明* 当センターでは脳死状態に陥る患者が少なくない。これら患者の病態及び予後を明らかにすることは治療上重要であり、そのためには脳死前から脳死、心停止までの間に、臓器の各々の機能がどの様に变化するか、そして、それら臓器間でどの様に相互影響し合い、最終段階に至るか明らかにする必要がある。現在までに、体内ホルモンと肝機能変化については検討したが、今後はさらに他の臓器変化も研究し、現在も明らかになっていない脳死患者の全身的な病態を明らかにする。	矢口准教授	1

以上の諸研究はいずれも臨床研究として行うものである。

\* : 医師免許取得者 対象